

I 実践

1 本校人権教育の目標

(1) 経営方針

- ア 人権に対する理解と認識を高め、各教科、道徳、特別活動など学校生活全体の中で、人間的な触れ合いを通しての平等や人権尊重の精神の育成を目指す。
- イ 地域、学校及び生徒の実態を把握して人間関係の改善を図り、意欲的に生活や学習ができる集団づくりを目指す。
- ウ 互いに信頼し、思いやりの心を持って生活できる集団づくりを目指す。

(2) 施策

- ア 全職員の共通理解の下に指導体制を確立する。
- イ 掲示資料を活用し、人権教育への正しい理解、啓発を図る。
- ウ 生徒の実態や悩みなどを日記指導・教育相談や日々の観察等を通して的確に把握し、個に応じた指導をする。
- エ 職場見学・職場体験など各種行事や活動を通して思いやりの心を育てる。
- オ 「人権教育指導資料」を活用した授業づくりを行う。
- カ 授業参観、保護者会、家庭訪問、学年通信等を通して、保護者への理解・啓発を促す。

2 実践内容

(1) 第1学年道徳

- ア 主題名 差別や偏見のない社会 正義、公正・公平 4－(4)
- イ 主題設定の理由

入学して半年ほど経ち中学校にも慣れ始め、生徒たちは落ち着いた生活を送っている。しかし、精神的にも肉体的にも大人に近づこうとする傾向がありながら、自分でできることは限られている。友人関係、上級生との関係、学習面など、生徒たちは様々なストレスと向き合いながら日々生活している。前向きに、学習や部活動など何か目標に向かって邁進することができるとういが、必ずしも全ての生徒が目標を持って生活できない場合も考えられる。ときには、他者を蔑んだり妬んだりする場合も考えられる。それは、やがて「いじめ」へとつながる可能性がある。

そこで、「いじめ」とは、どのようなことであり、またそれらの行為をすれば、どのような末路が待っているのかを具体的に示すことにより、「いじめ」に対する正しい認識を持たせる必要があると考えた。

この学習を通して、「いじめ」という行為を未然に防ぐことを期待して本主題を設定した。

- ウ 生徒の実態把握（在籍 男子18名 女子17名 計35名）

〈アンケート結果〉平成22年9月10日実施 回答32名

①公正・公平な態度で友達に接していますか。

・はい 18名 ・いいえ 0名 ・どちらともいえない 14名

②人の悪口や気にしていることを言ったことはありますか。

・はい 14名 ・いいえ 6名 ・どちらともいえない 12名

③人に悪口や気にしていることを言われたことはありますか。

・はい 14名 ・いいえ 10名 ・どちらともいえない 8名

エ 本時のねらい

「いじめ」は犯罪であることを知り、「いじめ」の行為を行うことにより、自分はもちろん相手や自分の身近な人々にまで多大な迷惑をかけることを理解し、「いじめ」はしてはならないという自覚を持つ。

オ 展開（簡略）

	主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援の手だて
導入	○これまでの経験を話し合う。 ○「いじめ」の定義について話し合う。	・悪口を言われた等 ・「いじめ」とは、身体的・心理的な攻撃を加え、相手が深刻な苦痛を感じるもの。	・事前アンケートなどを活用し話し合いを充実させる。 ・話し合いをまとめながら、「いじめ」の定義づけを行う。
展開	○「いじめ」をなくす方法について考える。 ○「いじめ」という行為により、誰に迷惑をかけるか話し合う。	・罰を与える。 ・強くなる。 ・相手 ・自分の親 ・相手の親	・ワークシートに書かせることにより、自分の考えをしっかりと持てるようにする。 ・新聞記事より、「いじめ」に加担した子どもの親の気持ちを話す。
終末	○今回の授業で感じたことをワークシートに記入する。	・「いじめ」は、よくないことである。	・感想を書かせることで、振り返り、生活にいかせるようにする。

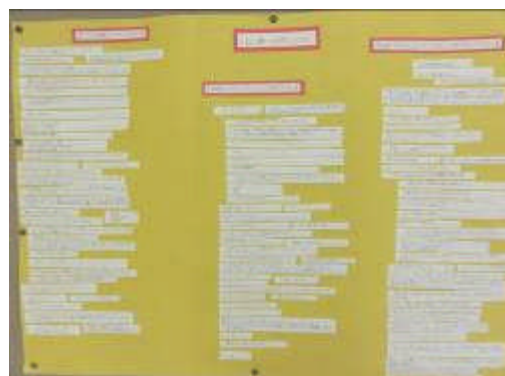
カ 実践の成果

「いじめ」について生徒たちは、よく考えることができた。自分自身そして周りの人の気持ちを考えようとする態度が見られたことは、成果としてあげることができる。この実践を通して、いじめや差別のない、思いやりのある人間関係をつくることで、誰もが居心地の良い学級にしていきたいという意欲もたせることができた。

（２）学級掲示を用いた掲示の例

年度当初は生徒たちも新しい学級に、期待と不安の両方が入り混じる。この時期に、自分の願いを実現するために、自己の願いと集団の願いを出し合うことにした。そして、よりよい学級やよりよい他者との関係を築くことを目的に学級での掲示を行った。

「どんな学級にしたいですか？」「学級からなくしたいことは何ですか？」「友達のためにどんなことをしてあげたいですか？」という質問を設定したところ、次のような願いや思いが挙げられた。



「どんな学級にしたいですか？」という質問に対して、「みんな思いやりをもって、困っている人がいたら助けてあげられるクラス」「もし、いじめがあったらなくしたい」「みんなが明るく仲のよいクラス」等の回答があった。また、「学級からなくしたいことは何ですか？」の質問には、「悪口を言わない」「いじめをしない」等の記述があった。そして、「友達のためにどんなことをしてあげたいですか？」の質問には、「困っている人がいたら相談にのりたい」「友達のよいところをたくさん見つける」等の答えがあった。生徒の思いや願いがよく表れていた。

（３）人権作文への応募

毎年、本校では「全国中学生人権作文コンテスト」へ多くの生徒が応募している。本年度、「法務省及び全国人権擁護委員会連合会」より、感謝状が学校に届いた。今後も、継続して応募を促すことによって、人権意識の高揚を図っていきたい。



Ⅱ 今後の課題

学校の教育活動全体を通して、差別や偏見のない社会を実現していく必要がある。そのために、継続した指導が必要になると考える。また、人権意識高揚のために、教室や校舎内の掲示を工夫することや言語環境にも意識して取り組むことなどが大切であると感じる。